

報 雜

◎人 事

鐵道醫 片 平 年 秋
年俸貳千四百貳拾圓下賜

(六月二十五日)

正七位勳四等 矢 野 恒 太
紀元二千六百年祝典評議委員會委員被仰付

(七月一日)

軍令部出仕兼海軍軍醫學
校教官監事海軍軍醫少佐 有 馬 玄
補愛宕軍醫長兼分隊長

(七月一日)

衛生技師正六位 竹 内 守 之 輔
防疫醫兼衛生技師ニ任ス
高等官四等ヲ以テ待遇セラル

衛生技師 竹 内 守 之 輔
愛媛縣衛生技師ニ補ス

防疫醫 竹 内 守 之 輔
六級俸下賜
愛媛縣防疫醫ニ補ス

(七月一日)

岡山醫科大學教授 遠 藤 中 節
賜本俸三級俸

(六月三十日)

衛生技師 喜 多 島 健 麿
七級俸下賜

(六月二十二日)

賜一等給 陸軍二等軍醫 栗 屋 一 步
(各通)

(七月四日)

正五位 皆 見 省 吾
正五位 柿 沼 吳 作
敘勳四等授瑞寶章

(七月七日)

臺北帝國大學附屬
醫學專門部教授 橫 川 定
中華民國、英領香港へ出張ヲ命ス

(七月四日)

敘從二位 正三位勳一等 荒 木 寅 三 郎
(七月十五日)

陸軍三等軍醫正 田 村 權 五 郎
臺北帝國大學醫學部陸軍衛生部依託學生取締ヲ命
ス
(七月二十日)

○藤 河 武 雄 君 岡山醫科大學講師藤河武雄君は今般同大學を辭し下關市岬之町西尾醫院に勤務せられたり

○鶴 身 孝 雄 君 豫て岡山醫科大學石山外科教室に勤務中の同君は今般高知市楠病院外科部長に轉任せられたり

○難 波 善 次 郎 君 は岡山醫科大學產婦人科教室に勤務し居られしか今般兵庫縣尼ヶ崎市外今井醫院に轉勤せられたり

○鈴 木 幸 夫 君 岡山醫科大學皮膚科教室に勤務し居られし同君は今般本縣英田郡西栗倉村村立診療所に轉勤せられたり

○岡 崎 衛 生 君 は今般岡山醫科大學講師を辭し盛岡市日本赤十字社支部病院耳鼻咽喉科部長に就任せられたり

○佐 藤 信 也 君 豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に勤務し居られし同君は今般京都府新舞鶴町海軍共濟組合病院耳鼻科に轉勤せられたり

○田 村 誠 彦 君 は今般岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室を辭し神戸市縣立神戸病院耳鼻咽喉科に勤務せられたり

○松 浦 祐 一 君 は今般岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室を辭し高知市本町高知病院に勤務せられたり

○山 本 英 雄 君 は今般岡山醫科大學產婦人科教室を辭し神戸市葺合區國香通滋野井醫院に勤務せられたり

○山 本 幹 爾 君 は今般岡山醫科大學產婦人科教室を辭し吳市濟生會吳病院產婦人科に勤務せられたり

○秋 山 頼 光 君 は今般岡山醫科大學產婦人科教室を辭し高知市山崎產婦人科病院に勤務せられたり

○淺黃由喜雄君 は今般岡山醫科大學耳鼻咽喉科
 教室を辭し尼ヶ崎市市立病院に勤務せられたり
 ○野村 清君 は今般家事の都合により郷里奈
 良縣山邊郡波多野村大字大西に轉住し依然診療に
 従事せられたり

イ. 2, 3 所謂痙攣並ニ體温下降毒ノ血液
 「カルシウム」量ニ及ボス作用知見補遺
 (本誌第 47 年第 8 號ニ發表セリ)
 ロ. 大脳皮質ノ「カルシウム」代謝ニ及ボス
 影響ニ就テ (日本藥物學雜誌第 20 卷第
 2 號ニ發表セリ)

◎學位授與

内橋禮次、河村謙一、浮田勝造、岡崎衛生の 4 君
 は像て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し
 居られしが内橋、河村兩君は本年 5 月 4 日の教授
 會を通過し浮田、岡崎兩君は同 5 月 18 日の教授會
 を通過し前者は 6 月 25 日後者は本月 16 日孰れも
 醫學博士の學位を授與せられたり其の主論文及び
 参考論文は次の如し

内 橋 禮 次 君

主 論 文

家兎睪丸運動神經ニ關スル藥理學的研究

- 其 1. 生體並ニ摘出家兎睪丸自働運動及ピソ
 レガ自律神經主宰ニ關スル實驗(本誌第 47
 年第 7 號ニ發表セリ)
- 其 2. 睪丸筋ノ「アセチールヒヨリン」及ビ
 「アドレナリン」感受性ニ及ボス甲状腺及ビ
 脾臟ノ影響ニ就テ (日本藥物學雜誌第 21
 卷第 2 號ニ發表セリ)
- 其 3. 睪丸ノ「アセチールヒヨリン」及ビ「ア
 ドレナリン」感受性ニ及ボス副腎及ビ脾臟
 ノ影響ニ就テ (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

参考論文

- 其 1. 芳香性「グワニチン」誘導體ノ家兎血漿水
 素「イオン」濃度ニ及ボス影響ニ就テ(追テ
 本誌ニ發表ノ豫定)
- 其 2. 「ハルミン」ノ家兎血清「カルシウム」量及
 ビ血漿水素「イオン」濃度ニ及ボス影響ニ就
 テ(日本藥物學雜誌第 21 卷第 1 號ニ發表
 セリ)
- 其 3. 諸種痙攣毒ノ家兎血清「カルシウム」量ニ
 及ボス影響ニ就テ(本誌第 45 年第 12 號ニ
 發表セリ)
- 其 4. 2, 3 所謂痙攣並ニ體温下降毒ノ「カルシ
 ウム」代謝ニ及ボス影響ニ就テ

河 村 謙 一 君

主 論 文

心臟ニ對スル迷走神經ノ作用補遺

- 其 1. 迷走神經ノ龜心臟興奮傳導ニ及ボス影
 響 (昭和 11 年 5 月岡山醫科大學歐文業府
 ニ發表セリ)
- 其 2. 迷走神經並ニ「アセチールヒヨリン」ガ
 龜心臟ノ「クロナキシー」ニ及ボス影響(昭
 和 11 年 5 月岡山醫科大學歐文業府ニ發表
 セリ)
- 其 3. 「アトロピン」ノ作用點ニ就テ(同上)

参考論文

- 1. Guanidin ノ神經纖維ノ興奮性ニ及ボス影
 響 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)
- 2. 逆流作用(Antidromic)ニ對スル知見補遺
 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)
- 3. ヒス氏索左右兩脚切斷ト心臟「ブロック」ノ
 關係(追テ本誌ニ發表ノ豫定)
- 4. 動植物組織内ノ被酸化物質ニ就テ(追テ本
 誌ニ發表ノ豫定)
- 5. 伊. Vitamin C ト細胞分裂誘起線
 ロ. 腦下垂體莖葉及ビ脾臟浸出液ノ酵母菌増
 殖ニ及ボス影響
 ハ. 2,6 Dichlorphenolindophenol ノ筋肉ニ
 對スル作用 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

浮 田 勝 造 君

主 論 文

實驗的貧血治療法ノ比較研究

- 其 1. 中毒性貧血ニ於ケル實驗的研究(本誌
 第 47 年第 6 號ニ發表セリ)
- 其 2. 失血性貧血ニ於ケル實驗的研究(本誌
 第 47 年第 6 號ニ發表セリ)

- 其 3. 中毒性並ニ失血性貧血ニ於ケル網狀織
内被細胞系統ノ態度
特ニ肝脾ニ於ケル組織學的所見（本誌第
47 年第 11 號ニ發表セリ）

参考論文

1. 實驗的貧血時超生體可染物質保有赤血球出
現ニ關スル知見補遺
附. 瀕死時家兎ニ於ケルソレガ消長ニ就テ
（東京醫事新誌第 2968 號ニ發表セリ）
2. 高松市附近ニ於ケル地方人ノ血液型分布並
ニ人種係數及ビ血液型ト外科的疾患トノ關係
ニ就テ（犯罪學雜誌第 8 卷第 2 號ニ發表セ
リ）
3. 肋骨護謨腫ノ 2 治驗例（本誌第 47 年第 5
號ニ發表セリ）
4. 所謂揉療治ニ因スル「アヒレス」腱皮下斷裂
ノ 1 治驗例
附. 揉療治ニ對スル余ノ卑見（東京醫事新
誌第 2914 號ニ發表セリ）
5. 腸軸捻轉ノ 1 例（本誌第 349 號ニ發表セ
リ）
6. 腸軸捻轉症ノ 5 例（本誌第 366 號ニ發表
セリ）

岡崎衛生君

主論文

- 乳嘴蜂窠ノ遺傳關係ニ就テノ研究
第 1 編 乳嘴蜂窠遺傳ト孿生兒（追テ大日
本耳鼻咽喉科學會々報ニ發表ノ豫定）
第 2 編 乳嘴蜂窠遺傳ト家系（追テ大日本
耳鼻咽喉科學會々報ニ發表ノ豫定）

参考論文

1. 耳性横痃血栓診斷法トシテノクエツケン
テツト氏試驗ノ價値ニ就テ（耳鼻咽喉科雜
誌第 7 卷第 3 號ニ發表セリ）
2. 「サルヴアルサンアグラヌロチーゼ」ニ就
テ（大日本耳鼻咽喉科學會々報第 40 卷第 9 號
ニ發表セリ）

3. 腦脊髄液ノ濁濁ニ就テ（大日本耳鼻咽喉
科會々報第 41 卷第 9 號ニ發表セリ）
4. 診斷困難ナリシ 1 哺乳兒ノ深在性頸並ニ縱
隔竇蜂窠織炎（耳鼻咽喉科雜誌第 9 卷第 1 號
ニ發表セリ）
5. 内頸靜脈發育不全ノ 1 例（耳鼻咽喉科雜誌
第 9 卷第 4 號ニ發表セリ）

◎第 11 回全國高等學校劍道大會

岡山醫科大學學友會劍道部主催にて本月 15, 16 の
兩日同大學講堂及び學生控所に於て同會を開催せ
り出場校は次の 18 校にして高松高等商業學校優
勝したり

大阪藥學專門學校 關西學院高商部
浪速高等學校 昭和高等商業學校
名古屋高等商業學校 同志社高商部
高知高等學校 京城帝國大學豫科
松江高等學校 關西學院豫科
京都高等蠶絲專門學校 高松高等商業學校
姫路高等學校 山口高等學校
第七高等學校 第六高等學校
立命館大學豫科 廣島高等工業學校

◎第 2 回醫科大學庭球大會

全國醫科大學庭球聯盟主催にて本月 21 日より 25
日まで大阪朝日新聞社岡山通信局後援の下に岡山
醫科大學「コート」に於て開催せり其戰績は名古
屋醫科大學 3 戰 3 勝にて優勝したり因に今回の參
加大學は次の如し

名古屋醫科大學 滿洲醫科大學
京都府立醫科大學 岡山醫科大學